

## 親と子の便秘に関する意識調査

**【調査概要】**

\*調査期間： 2016年8月9日～8月11日

\*対象： 小学生の保護者（25～49歳の男女）

\*方法： インターネットによるアンケート回答方式  
（子どもに関する質問は調査画面の前に子どもが同席のもと、保護者が代理回答）

2016年8月

**NPO 法人 日本トイレ研究所**

＜本件に関するお問い合わせ＞

日本トイレ研究所 報道関係窓口 [(株)プラチナム内] 担当：後藤・森・浜木

TEL：03-5572-7351 FAX：03-3584-0727

MAIL：press\_toilet@vectorinc.co.jp

本資料を転載、引用される際は上記までご連絡の上、クレジット表記をお願いいたします。

## ＜小学生の子を持つ保護者 621 名に調査＞

# 「親と子の便秘に関する意識調査」

## 保護者が便秘傾向にある子どもは

## そうでない子に比べて 3 倍便秘傾向にあることが判明！

- 国際的な便秘の定義である ROMEⅢ基準(\*)に照らし合わせると、小学生の子を持つ保護者の 26.2%が便秘状態でした。さらに便秘に該当する保護者のうち、16.0%が自分を便秘と認識していませんでした。
- 6 割以上 (62.0%) の保護者が、『「毎日排便がない、または排便の頻度が少ない」ということだけが便秘ではない』という事実を知らなかったことが明らかになりました。
- 子ども自身の便秘状況を保護者の便秘状況別に比べてみると、保護者が便秘状態にある子どもの便秘率は 32.5%で、保護者が便秘状態ではない子どもの便秘率 (10.9%) の約 3 倍であることが明らかになりました。

.....

日本トイレ研究所が今年6月に発表した「小学生の排便と生活習慣に関する調査」(2016年6月6日発表)では、小学生の5人に1人(20.2%)が便秘状態にあり、さらに小学生の2人に1人(49.7%)が学校でうんちをしない、またはほとんどしないと回答するなど、小学生の便秘問題が明らかになりました。この結果を受け、多数の報道機関だけでなく、教育関係者間でも大きな話題となっています。

子どもの便秘改善のためには、学校での教育や環境整備もさることながら、家庭での取り組みや保護者の理解が必要不可欠です。前出の調査では便秘の子どもの保護者のうち32.0%は子どもが便秘状態にあると認識していないなどの問題も浮き彫りになりました。

そこでNPO法人日本トイレ研究所は、家庭における排便・生活実態の把握のため、小学生の子を持つ保護者621名を対象に、「親と子の排便と生活習慣に関する調査」を実施しました。

### ＜主な調査結果＞

#### 【1】保護者自身の排便状況について

##### 小学生の子を持つ保護者の 26.2%が便秘状態。

##### さらに便秘に該当する保護者のうち、16.0%が自分を便秘と認識していないことが明らかに。

- ・ 国際的な便秘の定義である ROMEⅢ基準に照らし合わせると、小学生の子を持つ保護者の 26.2%が便秘状態でした。さらに便秘に該当する保護者のうち、16.0%が自分を便秘と認識していませんでした。
- ・ 自分自身が便秘だと感じるかどうかについて、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」回答した保護者のうち、便秘状態に該当する保護者を抽出。6 割以上 (64.2%) が 1 年以上前から便秘気味であると感じていたことが明らかになりました。
- ・ 便秘になって困っていることについて、7 割以上 (70.7%) が「イライラする・気分がすぐれない」と回答し、最も多いことが明らかになりました。

#### 【2】子と親の便秘の関連性について

##### 保護者自身が便秘状態にある子どもは、そうでない子どもに比べて約 3 倍便秘状態であることが明らかに

- ・ 子ども自身の便秘状況を保護者の便秘状況別に比べてみると、保護者が便秘状態にある子どもの便秘率は 32.5%で、保護者が便秘状態ではない子どもの便秘率 (10.9%) の約 3 倍であることが明らかになりました。
- ・ うんちや排せつについて家庭で会話している人の合計は 45.7%だった一方、子どもの便の状態をチェックしている(「とてもしている」「している」「ややしている」と回答した) 人の合計は 36.9%に留まることが明らかになりました。

なお、NPO 法人 日本トイレ研究所は、本調査の結果を受け、子どもの便秘解消を目指す新プロジェクト『ラブレタプロジェクト』を立ち上げました。プロジェクトでは「腸内環境の改善」「排便意識の改善」「トイレ空間の改善」という 3 つの改善に取り組んでいく予定です。 (\*)ROME=Ⅲ基準とは 2006 年に発表された慢性機能性便秘症の国際的診断基準。

## 【1】保護者自身の排便状況について

小学生の子を持つ保護者の 26.2%が便秘状態。

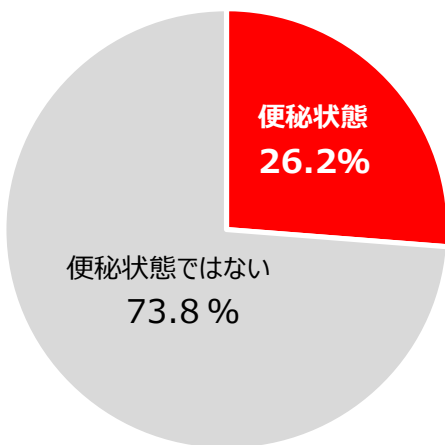
さらに便秘に該当する保護者のうち、16.0%が自分を便秘と認識していないことが明らかに。

本調査では ROMEⅢ の定義に照らし合わせ、下記条件のうち 2 つ以上に合致する人を「便秘状態にある」と定義する。

- ・排便頻度が 3 日に 1 回以下
- ・便失禁がある
- ・便を我慢することがある
- ・排便時に痛みがある
- ・便が硬い
- ・トイレが詰まるくらい大きな便が出る

### 【Q1】あなたの排便状況について、以下の項目はそれぞれどの程度あてはまりますか。(MA) / N=621

保護者のうち 26.2%が便秘状態にあることがわかりました。



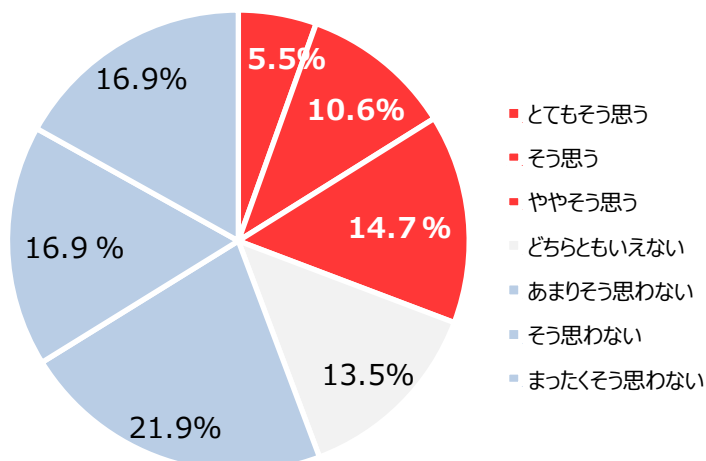
※項目の結果を元にグラフを作成

#### <回答項目>

- ・便秘っぽいと感じる
- ・便が出にくい
- ・シャバシャバした水のようなうんちがでる(下痢気味)
- ・硬いうんちがでる
- ・柔らかいうんちがでる
- ・1 回の排便で少しだけしかうんちがでない
- ・うんちをしても、まだうんちが残っているような気がする  
/うんちをしたあと、またすぐにトイレに行くことがある(残便感がある)
- ・うんちをするのに時間がかかる
- ・うんちをするときに痛みを感じる
- ・うんちをしたあとすっきりした気持ちにならない
- ・うんちが漏れることがある
- ・うんちを我慢したり、無理やりうんちをお腹に溜めようとする
- ・トイレが詰まるくらい大きなうんちが出ることもある

### 【Q2】あなたはご自身を便秘気味だと思いますか。(SA) / N=621

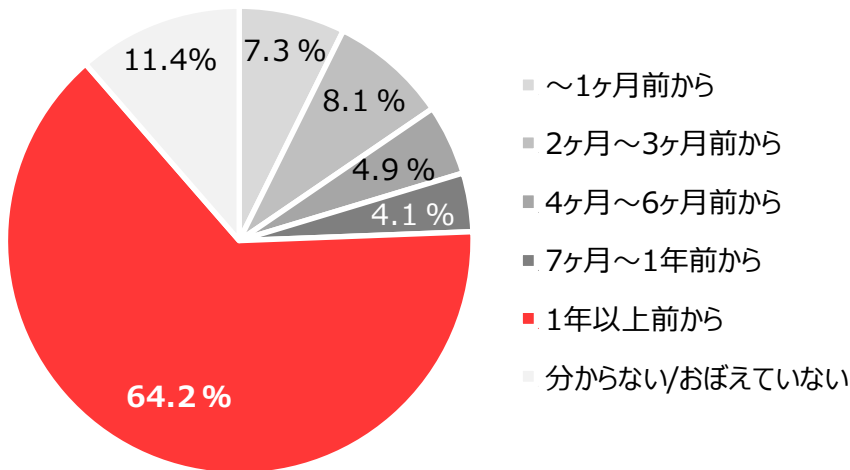
【Q1】で便秘状態に該当した保護者のうち、自分自身の便秘の自覚について、「あまりそう思わない」「そう思わない」「全くそう思わない」回答し、自分が便秘だと自覚していない人は 16.0%という結果でした。



自身を便秘気味だと回答した保護者のうち、6割以上（64.2%）が1年以上前から自覚があると回答。さらに、便秘で困っていることのNo.1は「イライラする・気分が優れない」（70.7%）

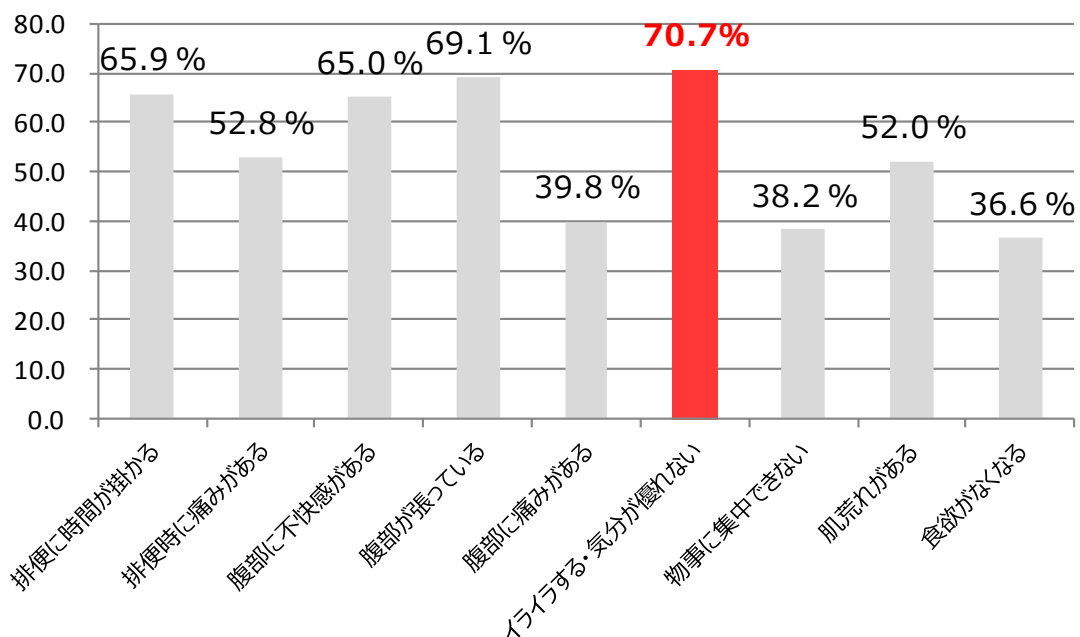
**【Q3】Q.2で「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」と回答した方へ伺います。それはいつ頃からですか。（SA）／N=123**

便秘の自覚について、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」回答した保護者のうち、【Q1】で便秘状態に該当した保護者を抽出。6割以上（64.2%）が1年以上前から便秘気味であると感じていたことが明らかになりました。



**【Q4】あなたが普段、便秘になって困っていることは何ですか。それぞれについてあてはまるものをひとつずつお選びください。（MA）／N=123**

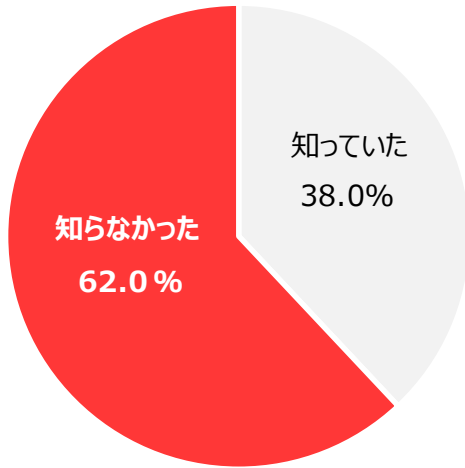
便秘の自覚について、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」回答した保護者のうち、【Q1】で便秘状態に該当した保護者を抽出。便秘になって困っていることについて、7割以上（70.7%）が「イライラする・気分がすぐれない」と回答し、最も多いことが明らかになりました。



6割以上（62.0%）の保護者が、『「毎日排便がない、または排便の頻度が少ない」ということだけが便秘ではない』という事実を知らなかったことが明らかに

**【Q5】あなたは、「毎日排便がない、または排便の頻度が少ない」ということだけが便秘ではない、という事を知っていますか？ (SA) / N=621**

62.0%の保護者が「毎日排便がない、または排便の頻度が少ない」ということだけが便秘ではない、という事を「知らなかった」と回答しました。



参考：

ROME=Ⅲ基準とは 2006年に発表された慢性機能性便秘症の国際的診断基準。

ROMEⅢの定義に照らし合わせ、本調査では下記条件のうち2つ以上に合致する人を「便秘状態にある」と定義しています。

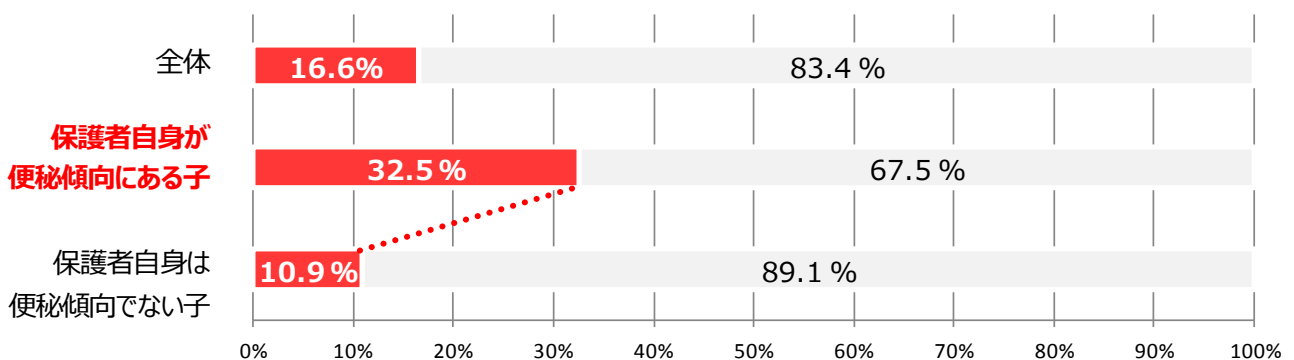
- ・排便頻度が3日に1回以下
- ・便失禁がある
- ・便を我慢することがある
- ・排便時に痛みがある
- ・便が硬い
- ・トイレが詰まるくらい大きな便が出る

**【2】子と親の便秘の関連性について**

保護者自身が便秘状態にある子どもは、そうでない子どもに比べて約3倍便秘状態であることが明らかに

**【Q6】お子様の排便状況について、以下の項目はそれぞれどの程度あてはまりますか。(MA) / N=621**

今回の調査では、小学生のうち16.6%が便秘傾向に該当しました。さらに、その結果を保護者自身の便秘状況別に比べてみると、保護者自身が便秘状態にある子どもの便秘率は32.5%で、保護者自身が便秘状態に該当しない子どもの便秘率（10.9%）の約3倍であることが明らかになりました。

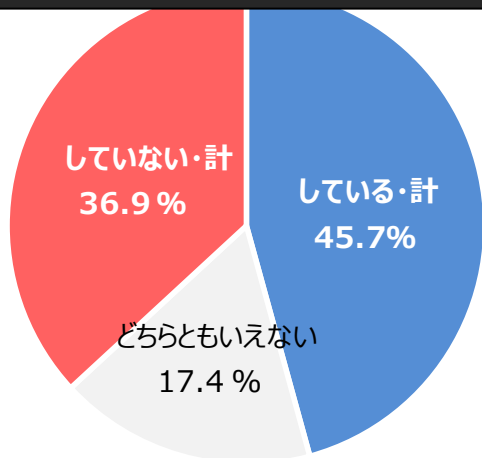


家庭で子どもとうんちや排せつについて会話している保護者は 45.8%。  
しかし、子どもの便の状態をチェックしているのは 35.4%にとどまることが明らかに。

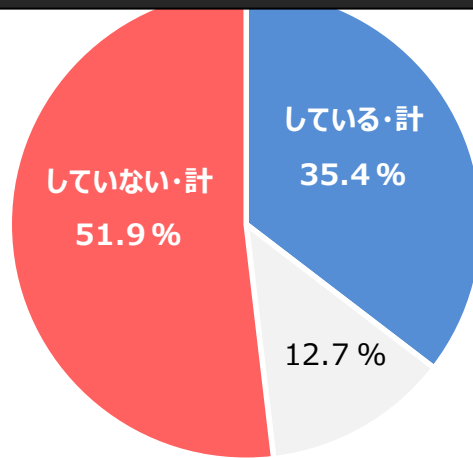
**【Q7】あなたは普段、家庭でお子さまと一緒にうんちや排せつに関する会話をしますか。また、お子さまの便の状態をチェックしていますか。(SA) / N=621**

うんちや排せつについて家庭で会話している（「とてもしている」「している」「ややしている」と回答した）人の合計は 45.7% だった一方、子どもの便の状態をチェックしている（「とてもしている」「している」「ややしている」と回答した）人の合計は 36.9%に留まりました。

家庭でうんちや排便について会話しているか



子どもの便の状態をチェックしているか



※項目の結果を元にグラフを作成

**【特徴的なコメント】**

**うんちや排せつについて会話している**

- ・ 健康を保つために大切なことだから。（36 歳・男性・会社員）
- ・ 排便がないと次回の食事量が極端に少なくなるため。（44 歳・女性・パート・アルバイト）
- ・ 自分自身が便秘気味だと感じているので、自分の子供も遺伝などによって同様なのではないかと感じて、気になって聞いている。（29 歳・男性・会社員）
- ・ ウンチをすることは恥ずかしくないと教えるため、あえて話題にしている。（44 歳・女性・専業主婦）

**うんちや排せつについて会話していない**

- ・ 子供が年頃で話したがらないから。（32 歳・男性・自営業）
- ・ お互いにプライバシーを尊重しているから。（45 歳・男性・会社員）
- ・ 子ども自身がうんちの話をするのは恥ずかしいと認識しているから。（38 歳・女性・公務員）
- ・ 特に便秘や下痢などの不調がないので、話をしていない。（41 歳・女性・専業主婦）

以上

## 総括

本調査結果を受けての所感をお聞かせ願えれば幸いです。

※スペース・文字数等に規定はございません

### NPO 法人 日本トイレ研究所について

日本トイレ研究所は、「トイレ」とおして社会をより良い方向へ変えていくことをコンセプトに活動している NPO 団体。トイレから、環境、文化、教育、健康について考え、すべての人が安心してトイレを利用でき、ともに暮らせる社会づくりを目指している。近年は、「子どもたちのトイレ・排泄」「災害時のトイレ・衛生対策」「世界をもてなすトイレ環境づくり」「自然エリアにおけるトイレ・し尿処理対策」を主なテーマとして、行政や研究機関、企業、市民、団体等と連携しながら活動を展開。

日本トイレ研究所ホームページ <http://www.toilet.or.jp/profile/>



#### <本件に関するお問い合わせ>

日本トイレ研究所 報道関係窓口 [(株)プラチナム内] 担当：後藤・森・浜木

TEL : 03-5572-7351 FAX : 03-3584-0727

MAIL : [press\\_toilet@vectorinc.co.jp](mailto:press_toilet@vectorinc.co.jp)